



# る う て る



2019年  
**11**月  
No.863

■発行所■  
日本福音ルーテル教会事務局広報室  
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1  
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト■ <http://www.jelc.or.jp>

■E-mail■ [jelc@jelc.or.jp](mailto:jelc@jelc.or.jp)

■発行人■ 李明生 koho@jelc.or.jp

■印刷人■ 精文堂印刷株式会社

■定価■ 1部 40円 (郵税を含む)

■振替口座■ 00190-7-1734

## 説教 「にもかかわらず」

日本福音ルーテル神水教会・松橋教会派遣宣教師 安達 均

「これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血 契約の血である。」



全聖徒の日を意識して本  
寄稿の準備をし始めた頃  
神水教会二信徒の門脇愛子  
さん(門脇聖子牧師のお姉  
様)が突然召され、聖徒とな  
られました。一連の葬儀にお  
いて、角本牧師とともに愛  
子さんが過去に神水教会の  
月報に寄稿されていた内容  
や人生の記録として残され  
ていた事柄を分かちあいま  
して、愛子さんにとっては空  
気のように生ぬるい信仰で  
あつた二面を書かれています  
た。たとえば牧師家庭に育つ  
たため洗礼を受けるのはあ  
たりまえで感動はなく、教



BOUTS, Dieric the Elder, 1464-67, The Last Supper (detail), Sint-Pieterskerk, Leuven

会が空気のようだったとか  
山に行くといつては礼拝を  
休んでいた事。また教会役  
員に選出されてしまい辞退  
したが辞退を認められな  
かつたため教会出席を半年  
間ボイコットした等々です。  
にもかかわらず神は愛子さ  
んを愛しつづけました。周  
りにはやや不真面目にも見  
えてしまう愛子さんの姿に  
共感を覚える方がいて、洗  
礼を受ける決心をしたそう  
です。神が愛子さんと周囲  
の人々をすべて良きに導い  
てくださっていたことを確信す  
るのです。そして、生前の愛

子さんを知る人々は、愛子  
さんとの天国での再会を楽  
しみにできます。  
しかし、この世から天への  
旅立ちにはいろいろなケ  
スがあり、天国での再会を  
楽しみに待つような気持ち  
にはなかなかない方も  
います。アメリカで牧会中  
メアリさんという方が50年  
ほど前に体験した事件を聴  
くことになりました。当時  
メアリさんは30代になった  
ばかり、幼い長男、長女、次  
男の3人の子育てに大忙し  
でした。彼女の父母もいつ  
しよに暮らしていて、自分

を育ててくれ  
た愛情豊かな  
両親なので  
大好きだった  
のです。しか  
し、メアリさ  
んの父は仕事  
を引退したこ  
ろから、アル  
コールを飲み  
すぎるように  
なり、またド  
ラッグにも手  
を出していた  
ようです。あ  
る日、彼は突

然銃をとり、娘のメアリさ  
んと孫たちがいる前で、自  
分の妻、つまりメアリさんの  
母親を銃で撃ち殺し、さら  
に銃で自死したのです。銃  
声はひびきわたり、隣人  
警察、そして、新聞社もつめ  
かけてきました。メアリさ  
んは、どうやって対応でき  
たのか、数週間をどうやり  
すごす事ができたのか、今で  
も思い出せないそうです。  
しかし、両親が血だらけに  
なつたことは、はつきり彼女  
の記憶に残り、トラウマと  
なり続けました。そのとき  
のことを話せるようになる  
には、何十年もかかりまし  
た。彼女は定期的にイエス  
の体と血をいただく信仰生  
活を何十年も続けました。  
現在は、あれほど悲惨な両  
親の死を体験したにもかか  
わらず、イエスの血により  
自分も天国にいる両親も赦  
されて平安を得ていること  
を確信できると言っています。  
イエスは人々に仕え、自  
らを無にし、十字架刑で人  
類の罪の赦しのための捧げ  
ものとなつてくださったまし  
た。その十字架刑の前の晩

には弟子たちに聖餐式をし  
ています。それは、その場に  
いた弟子たちだけのため  
ではなく、わたしたちを含む  
将来の弟子たちのための  
罪の赦しの契約でありまし  
た。しかし弟子たちには、そ  
のイエスの体と血をいただ  
く意味はすぐにはわかりま  
せんでした。翌日、ユダヤ人  
も異邦人も共謀して、神の  
子イエスを十字架刑につけ  
る時、弟子たちは、逃げ出  
してしまいました。そのよう  
な弟子たちであつたにもか  
かわらず、二日目にイエスは  
復活され彼らの前にあらわ  
れ、何ら咎めることもされ  
ずに赦し、聖霊を送り、あ  
なた方に平安があるように  
と言われます。  
一度洗礼を受け、繰り返  
し受ける聖餐式を通して、  
この世に生きている者も、  
すでに天に召された者も、  
これからこの世に生まれ  
くる者も、罪の赦しと平安  
が約束されます。聖餐式の  
際、罪の赦しをメアリさん  
のように実感できるように  
なる人もいれば、空気を吸  
うように無意識に聖餐式  
を受けている人が多いのも  
事実でしょう。どのような  
人が聖餐式を受けていよう  
が、人知を超えた全治全能  
なる神は、時代を超えて徹  
底的に一人一人を愛し、赦  
し、よき道へと導かれてお  
り、イエスの体である教会  
も強くなります。

⑳笑つていても心の痛む  
ことがあり 喜びが悲し  
みに終ることもある。箴  
言14・13



**カンボジア・ワークキャンプ2020 募集要項**

日程: 2020/2/12(水)~22(土)11日間  
対象: キャンプ実施時点で18歳以上の健康な方(高校生不可)  
募集人数: 5名~10名程度(人数調整のため選考があります)  
内容: 現地の団体の活動支援と交流、学校校舎修復や設備設置、キリング・フィールド等の歴史的に著名な土地や博物館訪問など。  
主催: JELA(一般社団法人日本福音ルーテル社団) Tel. 03-3447-1521  
参加費: 12万円  
締切: 11月30日(土)必着  
申し込み方法など詳細は下記サイトをご覧ください。  
<https://jelanews.blogspot.com/2019/09/2020.html>

スポーツ特待生のクラスに授業をしに入ると、突然「先生、聖書の授業は超大切で大事な話してるって分かるんだけど、最近ずっと重い話ばかりだから、少し遊んでから授業してよ」と言われました。扱っていた授業内容は「災害とキリスト教」、東日本大震災の話をしていました。重たくとも大切な話だと分かつていたのか、と思うと胸が熱くなりました。でもとりあえず注文通り少しの間、雑談ししばらくすると一人の生徒が「先生、もう授業していいよ」と声をあげました。「みんな、もうちゃんと授業聞こうぜ!俺のばあちゃん、被災者なんだわーみんなにもちゃんと聞いて欲

しいんだよ先生、震災の話任せだよ」  
この生徒と家族が痛みを抱えていたことを初めて知りました。「そうだったんだね。知らなかったよ。ありがとうね」と言うとう、優しく強くて、本当に素敵な笑顔でくれました。みんな笑顔でいても、人知れず痛みを抱えていることを、生徒のこの笑顔を通して改めて気づかされたのです。  
また、その痛みを思い起こすことで心が痛くなろうと聖書の言葉に耳を傾ける勇氣をもつこと。大切な姿勢をこの生徒から教えられました。ちなみにもこの生徒の授業への感想文には「聖書の授業で東日本大震災を思い出して、ばあちゃんに久しぶりに会いたくなった。大学に合格したら、絶対に会いに行く」とありました。わたしも彼のように痛みを痛みのままで終わらせない、悲しみの先に与えられるキリストの喜びに与る者でありたいのです。



議長室から 大塚謙治

11月1日は「全聖徒の日」。信仰を持つてこの地上の生を終えてゆかれた方々を覚える月です。11月の第二日曜日を「全聖徒の日」「百天者記念主日」としている教会も少なくないことでしょうか。死者を復活のキリストにおいて想起することは大切なことでもあり

「生きるにしても、死ぬにしても」

話です。先生は「自身が心筋梗塞のためCCU(心臓血管疾患集中治療室)に緊急入院した体験をお話してくださいませ。その時、自分が属するプロテスタント教会の牧師がお祈りのために駆けつけてくださったそうです。そこで牧師はこう祈られました。「この方は家族にとつても教会にとつても、また病院にとつても社会にとつてもとても大切な存在です」と言いつつ、病室からの回復を祈ってくださいました。その祈りが耳に届いて坂上先生は「思われたさうです。そうか、自分はそれほど

上先生はそう語って下さいました。私の心に深く刻まれたエピソードでした。パウロはこう言っています。「わたしたちは、生きる」とすれば主のために生き、死ぬとすれば主のために死ぬのです。従って、生きるにしても、死ぬにしても、わたしたちは主のものです。キリストが死に、そして生き

たのは、死んだ人にも生きていた人にも主となられるためです(ロマ14:8-9)。イエスは生者と死者の双方の救い主です。だから私たちは安心してすべてを主に委ねることが出来ます。何と幸いなことでしょうか。

このような中、1954年、当時の式文委員会が「新讃美歌集 第一集」を編集(ルーテル社発行、写真)。私たちの教会の礼拝に「ふざわしい」賛美歌を紹介しようとして試みしました。1954年にルーテル教会が歌集を発行していたと聞くと、驚く方がおられるかも知れません。実際、この歌集自体は広く知られておらず、現在は入手困難な様子。今の所、ルター研究所に保管されていた冊を確認しています。

1953年の『るうてる第68号』を読むと、礼拝で用いる賛美歌への問題意識が語られています。そして、特に1931年版『讃美歌』の使いにきりが指摘されています。教会暦や典礼的な要素を大切にしているルーテル教会の礼拝と、歌集との調和をみるには不足があったようです。『るうてる』には「我々の理想を云えば、ルーテル教会の完全な『讃美歌集が欲しい』とも。68号と69号

福島移住女性支援ネットワーク(EIWAN) 李明生 (田園調布教会牧師)



活動は第2期(2018年〜2022年)に入りました。

震災から8年が経過し、支援内容も長期的な視点で新しい地域共同体のあり方を模索していくものへと変化してきました。現在は、日本語学習の支援、地元市民と移住女性の出会いと協働の機会作り、移住女性の子どもの支援(学習支援と継承語教育)支援、移住女性とその子どもの保養プログラムの実施と支援、移住女性グループ支援とネットワーク作りが活動の中心となっています。また近年外国からの技能実習生や外

国労働者が急増し、EIWANで実施している日本語教室に参加される方も増加しています。最近では、実習先での給料遅配に対して工場に文句を言ったから解雇と寮退去を命じられたというケースで、交渉にあつたの通訳の紹介を依頼されることもありま

これら活動を続ける中では、この社会の中には外国人差別・女性差別が深く潜んでいて、見えないところで既に深い分断を造り出してしまつてい

ことであらためて向き合われます。しかしこれは単に被災地だけではなく、この日本社会全体が今直面している大きな問題であるとも言えます。この社会の周辺に追いやられ、弱く小さくされた人々の声に耳を傾け、多様な人々と共に歩む地域社会を造つていくことは、現代の日本社会を生きるキリスト者の使命としてより「層重要」となっているのではない

でしょうか。 EIWANの活動については以下のサイトもご覧ください。 <http://gaikikyoo.jp/shin/sai/aiwan/index.html>

賛美歌と私たち



1941年、旧JELCは日本基督教団へ参加、戦中、オルガンや賛美歌もまた戦意高揚のための道具として使われてしまいました。戦後、教会を離脱、その頃JELCは過去を反省し、ルーテル教会としてのあり方を再確認しました。そして、ルーテル教会として継承してきた信仰にふさわしい礼拝を整

えることが急務と考えました。式文委員会や神学校の先生が中心となって、礼拝改革を呼びかけました。その歴史の断片は、当時の『るうてる』から見つかります。この時、歌集について言えば、ルーテル教会で中心的に用いられていた1931年版『讃美歌』自体に、教派を超えて課題が指摘され始めていました。

当初「新讃美歌集」は第二、第三と発行される計画でしたが、結局、第一集にとどまりました。恐らく、理由は二つ。一つは、同年に口語訳の新約聖書が発行されたこと。式文委員会の活動が忙しくなつたから。もう一つは、1954年版の『讃美歌』が発行されたから。(続く)



人間の性は人格深く結びついていることから、その性別をモックスではなくセクシュアリティと表現する。人のセクシュアリティは①身体の性②心の性③自己認識④好きになる相手の性⑤指向⑥表現する性の組合せによって一人が生物学的に異なる。100人いれば100通りのセクシュアリティがあるとされている。まさに多様。ただ、中でも少数派と言われているのがLGBT等の方々で、様々な生き方を感ずる。性指向・性自認

で整理すると、  
①性自認  
②シスジェンダー(性別違和感はない)  
③トランスジェンダー(性別違和感がある)  
④クエスチョニング(性別が決められない)  
⑤エックスジェンダー(男女の枠に入らない)  
⑥二つの性自認について様々な性指向の人がいる。  
⑦性指向  
⑧ヘテロセクシュアル(異性愛)  
⑨ホモセクシュアル(同性愛)  
⑩バイセクシュアル(両性愛)  
⑪アセクシュアル(無性愛)  
⑫パンセクシュアル(全性愛)  
⑬少数派性的マイノリティの立場の方々が、多数派に比べて自殺、自殺念慮、自殺未遂の割合が著しく高いことから、強いストレスや生きづらさを抱えている方が多いことが分かる。当事者の方々はどのような思いで生きてこられたのだろうか。  
長い間、自分は普通ではないと思いつつ病やアルコール依存症になつた。  
ずっと着る服を着ているみたい。  
毎日が罰ゲーム。  
みんながお風呂に入る修学旅行や宿泊学習が、ホントに嫌うた。  
二次性徴で自分の体が変わるとに耐えられない。  
将来が見えない。  
一人一人のセクシュアリティは神様が与えてくださったもので、神様は必ずすべてを祝福されていると信じています。

### NCC教育部教会教育 フェスティバル報告

三浦知夫  
(東京池袋教会教師・  
TNG委員長)

の分科会に分かれて学びの時を持ちました。夕食と交流会の後は会場となったルーテル東京教会の夕礼拝に出席しました。

2日目は「多様な性／LGBTと子どもたち」

9月15日と16日に日本キリスト教協議会(NCC)教育部による教会教育フェスティバル「みんな集まれーキリストに

2007年に第1回が東京で開催され、松本仙台を経て、今回が4回目となるフェスティバルというのですが、私自身はこれまで参加したことがなく今回TNG委員

関田寛雄教師(日本基督教団巡回教師)の説教による開会礼拝で始まり、1日目は「ゴスペルを叫ぼう!」

「共に分かち合う教会学校」

### フィンランド 研修旅行の報告

日笠山吉之  
(札幌教会教師)

元スオミ教会の宣教師ポウツカ先生ご夫妻が企画された「南西フィンランドで学習・文化・余暇を楽しむ一週間の旅(8月11~17日)」に、めばえ幼稚園の先生たち3人と一緒に参加しました。

の竹内皓さん、三鷹教会のKさん親子、日本基督教団白鷺教会のY夫妻、スオミ教会のフィンランド語講座に出席されていた二人の姉妹の計11名で

の研修の拠点となった町は、首都ヘルシンキから車で2時間ほど北西にあるロイマー。滞在したホテルの周りは、切り二面

牧師)から引き継いだ、その他の日系人居住地への出張訪問などを行っています。

の市ヶ谷教会の青年会が毎年11月末に行っている「Young Festival」を参考に、「Young Festival in São Paulo」と題して、同じ教

地球の反対側に位置する日本とは言葉も文化も物も社会も国民性も違う

### 森二樹のブラジル 青年宣教 ボランティア



2日目 日本基督教団早稲田教会・スコットホールにて



1日目 ルーテル東京教会にて

今年の2月からブラジルはサンパウロで、日系パロキア(日系サンパウロ教会・ジアデマ教会・南米教会の3教会から成る現地の共同体)と日本福音ルーテル社団(JELA)から支援を受けて、1年間の青年宣教ボランティアとして活動しています。

他方、日本での青年活動経験を生かし、青年会の活動にも力を入れています。8月には、所属教会

の市ヶ谷教会の青年会が毎年11月末に行っている「Young Festival」を参考に、「Young Festival in São Paulo」と題して、同じ教

地球の反対側に位置する日本とは言葉も文化も物も社会も国民性も違う



Young Festival in São Paulo の様子



日系サンパウロ教会礼拝の様子



ベリー摘みの一コマ (撮影: 竹内皓さん)

### 宣教会議報告

滝田浩之(事務局長)

9月24〜25日、市ヶ谷セントーを会場に第28期第2回宣教会議が開催されました。第28期は互いの働きへの恵みを「分かち合う」ことを大切にしようという思いの中で、昨年は「TNGの働き」について働きの学びを行いました。今年には「NCCについて知ろう」というテーマで、70周年を迎えたNCC(日本キリスト教協議会)の働きについての学びと分かち合いの時を過ごしました。

講演を頂きました。使徒言行録1:8の「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる」という節を手がかりに、私たちの宣教のベクトルがどこからどこへ向かっていく道なのかを鮮明に示してくださいました。地の果てにおられるキリストに出会う道それが聖霊が私たちを送り出すというところだと呼びかけは、集った者一人一人の上に聖霊の炎が降るような励ましを与えてくれました。何よりも、NCCは一つの教派では成し遂げられないような働きを、そこに関わり、祈りを合わせること、平和のきずなで結ばれて、私たちがここで

連携しているその恵みを分かち合う働きでありたいと先生は結んでくださいました。その後、NCCの幹事として働かれた経験を持つ小泉基牧師、またNCCの常議員である李明生牧師から、NCCの成立と現在の働きと今後の展望について、またルーテル教会は小さな所帯ながら多くの委員会に委員を派遣しています。そこで委員長の責務を担ってくださっている内藤新吾牧師から「平和と核問題委員会」について、そして「部落差別問題委員会」、「在日外国人の人権委員会」、「ドイツ語圏教会関係委員会」に続いて、藤原佐和子姉(ルーテル鶴ヶ谷教会常議員)からは「CCLAアジアキリスト教協議会の働き」について

お話を聞く時を持ちました。それぞれの委員の働き、何よりも、これからの委員会に関わられる方が、どのような出会いと導きの中で、NCCの働きの輪に加わっていかれたのかというお話は、私たちの身近な問題意識を大切にすること、神さまの導きの中で出会いが与えられ、そして働きが広がっていくという道筋を示されたようでした。

2日目は、初日のあまりにもたくさんインプットをワークショップという形で参加者同士で分かち合う時となりました。現実の教会の礼拝生活の中では、気づくことの少ない事柄に、NCCの働きが気付きを与えてくれるという思いや、社会的な働きについて聞くと、正直に、自分がそのような働きをなしていないことに申し訳なく感じしてしまったり、ルーテル教会らしく、素朴に、それぞれが思い感々たることを、これまた「分かち合う時」となりました。



第7次宣教会議案の検討

ワークショップの一コマ

### 「和解と平和を求める日韓キリスト者の共同祈禱会」報告

10月9日(水)、東京・北新宿の日本キリスト教会柏木教会を会場に「和解と平和を求める日韓キリスト者の共同祈禱会」が行われました。この共同祈禱会は、深刻化する日韓関係に深く心を痛める韓国と日本のキリスト者が信仰と心を合わせて祈りの時を持つために、去る8月11日に韓国ソウルにおいて「東北アジア平和のための韓日共同祈禱会」が韓国NCCによって急遽計画され、韓国の諸教派と共に日本のキリスト教会からの5名の代表者が参席し開催されたことに応えて、在日大韓基督教会からの呼び掛けによつて計画されたものです。今回の共同祈禱会では韓国NCCと諸教派からの約20名のゲストを合わせて、180名を超える参加者を迎えて行われました。石橋秀雄牧師(日本基督教団総会議長)と李鴻政(イ・ホンジョン)牧師(韓国NCC総務)より代表メッセージ、今回の主題エフエソ2:14-22の朗読に続いて、13の日本と韓国の教派・団体(以下祈禱順に、在日大韓基督教会、日本聖公会、大韓

聖公会、日本基督教団、韓国正教会、日本キリスト教会、韓国キリスト教長老教会、日本バプテスタ連盟、基督教大韓監理会、日本福音ルーテル教会、日本カトリック正義と平和協議会、韓国基督教青年会、日本NCC東アジアの和解と平和委員会)が交互に祈りを捧げました。また祈禱会後には、去る7月、和解と平和の実現のために日本NCC東アジアの和解と平和委員会を中心に行われた、朝鮮民主主義人民共和国・朝鮮基督教連盟訪問報告が行われました。(事務局)

### ルーテル学院110周年記念大会のご案内

石居基夫(日本ルーテル神学校校長)

いよいよ、来たる11月30日に、ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校の110周年記念大会が開催されます。大学の研究所や様々な部署でも、その活動に110周年の冠を持って、記念事業を行ってきていますが、今回の記念大会は、大学全体の特別な企画です。牧師養成としてスタートした神学校の長い歴史に裏付けられながら、時代の中で大学は新しい使命を担い、学院まで設置して公共社会に人材を送り出してきました。

神学校、大学として学院が、何を大切なことと考えるか。この機会に確認し、社会にしっかりと発信をしていきたいと思います。この大会では、特別記念講演をメインプログラムとしていきます。講演者は向谷地生良氏。テーマは、「共に生きる社会を目指す」。『浦河べつての家の家』の実践を通して、向谷地氏は、北海道日高にある浦河で、長年にわたりソーシャルワーカー

として働かれ、統合失調症などの精神疾患を持つ人々への支援に関わってこられました。古く教会堂を拠点として「浦河べつての家の家」を設立し、共同生活をして共に支え合ってきたのです。この取り組みの経験を通して、様々な困難を抱える私たちが共に生きる社会をどのように実現していくのか、講演をいただきます。【いのちと尊厳を守る社会を】ルーテル教会は、日本に

おける宣教の初めから、教会と共に学校と社会福祉施設を作り、またそれぞれの地域社会において幼稚園や保育園の実践に携わってきました。そうした教会の広い宣教の働きを受け、その働きを担う人材を育成しようとして、ルーテル学院大学は対人援助の専門職を養成する教育を展開してきたのです。ルーテルが目指す、いのちと尊厳を守り、また共に生きる社会を実現する人材育成の使命と意義を、この記念大会において、皆さま



9月23日一日神学校での110周年記念シンポジウム

んとも確認することができればと願っています。

### 公告

この度左記の行為を致しますので、宗教法人法第23条の規定に基づき公示致します。

2019年10月15日  
宗教法人日本福音ルーテル教会  
代表役員 大柴讓治  
信徒利害関係人 各位  
一、土地取得  
所在地 大田区南千束三丁目360番13、14  
地番 360番13、14  
地積 245.19㎡  
理由 宣教地拡大のため